

公衆衛生学

1 構成員

	平成 14 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
助教授	1 人
講師（うち病院籍）	0 人（ 人）
助手（うち病院籍）	2 人（ 0 人）
医員	0 人
研修医	0 人
特別研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	2 人（ 0 人）
研究生	4 人
外国人客員研究員	0 人
技官（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	1 人
合 計	11 人

2 教官の異動状況

- 竹内 宏一（教授）（H1.7 月～現職）
 金森 雅夫（助教授）（H9.4 月～現職）
 甲田 勝康（助手）（H7.4 月～現職）
 中村 晴信（助手）（H11.11 月～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 13 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	13 編（5 編）
そのインパクトファクターの合計	12.79
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	3 編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4 編（4 編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	9 編（9 編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	4 編（4 編）
そのインパクトファクターの合計	0
(6) 国際学会発表数	3 編

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kanamori M., Suzuki M., Yamamoto K., Kanda M., Matsui Y., Kojima E., Fukawa H., Sugita T., Oshiro H. (2001) A day care program and evaluation of animal-assisted therapy (AAT) for the elderly with senile dementia. *Alz Dis Assoc Dis*, 16 (4): 234-239.
2. Kanamori M., Schnell A.H., Inoue M., Yamamura Y., Wang Y., Suzuki M., Takeuchi H., Shinmura K., Yokota J., Tajima K., Elston R.C., Sugimura H. (2001) Segregation analysis of gastric cancer in a Japanese Population. *International Journal of Human Genetics* 1 (4):263-270.
3. Kouda K., Nakamura H., Fan W.Y., Horiuchi K., Takeuchi H. (2001) The relationship of oxidative DNA damage marker 8-hydroxydeoxyguanosine and glycoxidative damage marker pentosidine. *Clin Biochem.* 2 : 247-250.
4. Nakamura H., Kouda K., Fan W.Y., Watanabe T., Takeuchi H. (2001) Suppressive effects on allergic contact dermatitis by short-term fasting. *Toxicol Pathol.* 29 : 200-207.
5. Fan W.Y., Kouda K., Nakamura H., Takeuchi H. (2001) Effects of dietary restriction on spontaneous dermatitis in NC/Nga mice. *Exp Biol Med.* 226 : 1045-1050.
6. 金森雅夫, 鈴木みずえ, 山本清美, 神田政宏, 松井由美, 小嶋永実 (2001) 痴呆性老人のデイケアにおける動物介在療法の効果に関する研究 日本老年学会誌 38(5) : 659-664.
7. 甲田勝康, 范文英, 中村晴信, 中村留美子, 竹内宏一 (2001) 思春期における身長増加と総コレステロールの推移：3年間の継続的研究 学校保健研究 43 : 109-115.
8. 中村晴信, 范文英, 瀬古竹子, 甲田勝康, 竹内宏一 (2001) 児童の遊びの実態, および性, 環境, 体格との関連 学校保健研究 43 : 116-124.

インパクトファクターの小計 [7.071]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 鈴木みずえ, 大山直美, 山田紀代美, 金森雅夫 (2001) 虚弱高齢者の転倒恐怖感 (Fear of falling) と Health-related QOL 関連性 *Gerontology New Horizon.* 13(4) : 487-434.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Seino S on behalf of The Study Group of Comprehensive Analysis of Genetic Factors in Diabetes Mellitus*. Kanamori M., Wang Y-J, Takeda J., Inoue I, Sanke T., Nanjo K., Mori H., Kasuga M., Hara K., Kadowaki T., Tanizawa Y., Oka Y., Iwami Y., Ohgawara H., Yasuda K., Yamada Y., Seino Y., Yokoi N., Yano H., Seino S. (2001) S20G mutation of the amylin gene is associated with Type II diabetes in Japanese. *Diabetologia.* 44 (7): 906-909.
2. Kobashi G., Shido K., Hata A., Yamada H., Kato EH., Kanamori M., Fujimoto S., Kondo K. (2001) Multivariate analysis of genetic and acquired factors ; T235 variant of the angiotensinogen gene is a potent independent risk factor for preeclampsia. *Semin Thromb Hemost.* 27 (2): 143-147.
3. Tanaka T., Kouda K., Kotani M., Takeuchi A., Tabei T., Masamoto Y., Nakamura H., Takigawa

M., Suemura M., Takeuchi H., Kouda M. (2001) Vegetarian diet ameliorates symptoms of atopic dermatitis through reduction of the number of peripheral eosinophils and of PGE2 synthesis by monocytes. J Physiol. 20 : 353-361.

4. 大堀兼男, 竹内宏一, 松本明世, 池本真二, 近藤和雄, 板倉弘重 (2001) 思春期におけるアポ蛋白の因子分析 動脈硬化 29(1・2) : 1-6.

インパクトファクターの小計 [5.721]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Takeuchi H., Kouda K., Nakamura H. (2001) Disciplinary approach and protective approach in school health (report No. 1). Jpn J Sch Health 42 (suppl) : 8-10.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Tsuboi H., Fukino O., Takeuchi H., Kobayashi F. (2001) Moderate green tea Intake may increase CD4/CD8 ratio in elderly women. Proceedings of 2001 International Conference on O-CHA (tea) Culture and Science. 257-260.
2. 大澤真木子, 武藤玲子, 永木茂, 小国美也子, 小国弘量, 坂内優子, 斎藤加代子, 大橋博文, 金森雅夫, 兼子直 (2001) 厚生省精神・神経疾患研究委託費 (10指-1) 新技術を用いたてんかん等の診断法と治療法の開発 小児てんかんの臨床遺伝学— 遺伝相談への資料作成を目標として— 平成12年度研究報告書 187-191.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 吉田隆子 (2001) 食べたい気持ちを育てる「食育のすすめ」保育とカリキュラム 8 : 53-57.
2. 吉田隆子 (2001) 食育クッキング ひろば 10 : 17-23.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 鈴木みずえ, 金栄享子, 田中操, 金森雅夫 (2001) ペット型ロボットを用いた高齢者のアクティビティケアの試み 地域ケアリング 4(4) : 88-91.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 佐藤祐造, 野澤明子, 竹内宏一 (2001) 糖尿病の運動療法 糖尿病2001 [からだの科学 増刊] 99-103.

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 竹内宏一 (2001) 学校保健 [新簡明衛生公衆衛生 第4版. p167-177] 南山堂
2. 竹内宏一 (2001) 今日のがん「がんの疫学」[がんに挑む—早期発見,がん研究・治療の最前線—. p83-93] 静岡新聞社
3. 金森雅夫, 本田靖 (2002) 系統看護学講座4「統計学」(金森雅夫編集) 医学書院
4. 金森雅夫 (2002) 生活習慣病の体質 [スタンダード公衆衛生学 編集 真野喜洋. p165-168] 文光堂
5. 金森雅夫, 白木まさ子, 鈴木みずえ, 大山直美, 加治屋晴美, 小橋元, 浦野哲盟, 宮嶋裕明, 内田亮子 (2002) 静岡県の百寿者および90歳高齢者の多面的検討. 平成13年度厚生科学研究費補助金 百寿者の多面的検討と国際比較 研究報告書 128-138.
6. 金森雅夫, 白木まさ子, 鈴木みずえ, 大山直美, 竹内志保美, 加治屋晴美, 小橋元, 宮嶋裕明, 田中諭, 内田亮子 (2001) 静岡県の百寿者及び90歳高齢者の心身の特性に関する研究. 厚生科学研究 研究費補助金長寿科学総合研究事業『百寿者の多面的検討とその国際比較に関する研究 平成12年度 総括・分担研究報告書 (主任研究者 広瀬信義) 38-42.
7. 金森雅夫, 中西俊樹, 荒木田美香子, 王友潔, 遠藤彰, 佐藤友子, 堀口真由子, 竹内宏一, 松本友子, 大関武彦 (2001) 10歳, 13歳におけるヘモグロビン A1c の分布と基準値について 第11回 AUXOLOGY 研究会記録集 Vol 8. 65-66.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 鈴木みずえ, 渡辺素子, 小川佳子, 竹内幸子, 松下喜美子, 大城一, 小林貴子, 櫻庭繁, 松本友子, 中原大一郎, 金森雅夫 (2001) 障害高齢者に対する音楽療法の神経行動・内分泌学的評価手法に関する研究 日本サウンド財団平成12年度研究助成成果概要 16-18.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 鎌田 隆, 金森雅夫, 住吉憲一, 目黒輝久, 土屋真知子, 芹沢ふみ子, 清水善男, 佐野光正 (2001) 騒音職場の聴力への影響とストレス度に関する調査研究 労働福祉事業団平成12年度研究助成報告書

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 竹内宏一, 甲田勝康, 中村晴信 (2001) 小児生活習慣病予防健診における要注意者群に対する予防教室の再検討 — 分担研究:小児期からの総合的な健康づくりに関する研究 — 平成12年度厚生科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 報告書 399-402.
2. 金森雅夫, 鈴木みずえ, 田中操 (2002) ペット型ロボットによる高齢者の Quality of Life 維持・向上の試み 日本老年医学会雑誌 39(3) : 214-218.
3. 甲田勝康, 石川節子, 松本詳代, 吉川由紀子, 小松治揮, 池田凡美, 杉井和美, 森下かおり

(2001)平成11年 静岡県脳卒中登録情報システム 事業報告書 静岡県健康福祉部 静岡県総合健康センター

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 渥美哲至, 横山徹夫, 片山容一, 杉浦明, 清水貴子, 杉山憲次, 金森雅夫 (2002) 視床下核深部電気刺激療法後のアンケートによる満足度評価 厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）報告書

(6) 国際学会発表

1. Suzuki M., Takeuchi S., Kajiya H., Ohyama N., Kanamori M. (2001) Health-related QOL and the fear of falling and among the frail elderly, International Society for Quality of Life Research Pan-Pacific Conference, April, Tokyo.
2. Suzuki M., Kanamori M. Shiraki M., Yamazaki S., Sato H., Ito S., Hirose N. (2001) Relationship between QOL and Activity of Daily Living, Blood Test among nonagenarians in Japan International Association of Gerontology's 17th World Congress, July, Canada, 1-6.
3. Kanamori M., Suzuki M., Shiraki M. Yamazaki S., Sato H., Ito S., Kobashi G., Yosimura K., Uchida A., Hirose N.(2001) Descriptive Epidemiology of Centenarians and Nonagenarians in a population based study, Kakegawa, Japan. International Association of Gerontology's 17th World Congress, July, Canada.

4 特許等の出願状況

	平成 13 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 13 年度
(1) 文部科学省科学研究費	3 件 (980 万円)
(2) 厚生科学研究費	1 件 (100 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	0 件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	3 件 (45 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

金森雅夫（分担者）創成的基盤研究費（新プログラム方式）「糖尿病の遺伝素因の総合的解析」
800 万円（継続）代表者 千葉大学大学院医学研究科教授 清野進

金森雅夫（代表者）基盤研究（C）（2）「障害者に対する音楽療法の神経行動・内分泌学的評価手法に関する研究」90万円（継続）

中村晴信（代表者）基盤研究（C）（2）「アレルギー性皮膚炎の組織酸化的障害における食事制限の抑制機序」90万円（新規）

(2) 厚生科学研究費

金森雅夫（分担者）百寿者の多面的検討と国際比較 100万（新規）代表者 慶応大学医学部講師 広瀬信義

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	平成13年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	0件
(3) 学会座長回数	5件
(4) 学会開催回数	0件
(5) 学会役員等回数	18件

(3) 座長をした学会名

竹内宏一 第71回日本衛生学会 2001年4月，福島
竹内宏一 第44回東海学校保健学会 2001年10月，岐阜
竹内宏一 第72回日本衛生学会 2002年3月，三重
金森雅夫 第47回東海公衆衛生学会 2001年7月，名古屋
金森雅夫 第72回日本衛生学会 2002年3月，三重

(5) 役職についている学会名とその役割

竹内宏一 日本学校保健学会理事
竹内宏一 日本公衆衛生学会評議員
竹内宏一 日本衛生学会評議員
竹内宏一 日本民族衛生学会評議員
竹内宏一 日本産業衛生学会評議員
竹内宏一 日本疫学会評議員
竹内宏一 日本健康教育学会評議員
竹内宏一 日本産業精神保健学会評議員
竹内宏一 東海公衆衛生学会評議員
竹内宏一 産業衛生学会東海地方会理事
竹内宏一 東海学校保健学会理事
竹内宏一 日本代替・相補・伝統医療連合学会評議員

竹内宏一 日本体力医学会評議員
 金森雅夫 日本衛生学会評議員
 金森雅夫 日本疫学会評議員
 金森雅夫 東海学校保健学会評議員
 甲田勝康 日本生理人類学会評議員
 甲田勝康 東海学校保健学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 13 年度
学術雑誌編集数	2 件

1. 竹内宏一 学校保健研究 編集委員
2. 甲田勝康 J Physiol Anthropol, a member of Editors

9 共同研究の実施状況

	平成 13 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	1 件
(3) 学内共同研究	0 件

- (2) 国内共同研究
 食事制限と肝機能に関する関西医科大学との共同研究

10 産学共同研究

	平成 13 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞 (学会賞等)

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 学校保健における看護診断と学校診断の意義

学校保健活動において重要な職種であり唯一の専従者は養護教諭である。その活動をより深化させるためには、養護教諭診断が大切であることを、類似した職種である看護師の看護診断を参考に論じた。さらに、学校健康診断との関連について考察した。一方、公衆衛生学では、以前から地域診断が重視されているので、その関連で学校診断という概念を提唱してその重要性を提起した。

(竹内宏一, 甲田勝康, 中村晴信)

2. 糖尿病の遺伝素因に関する研究

膵島アミロイド沈着で糖尿病の発症, 進展に関与するとされるアミリンの S20G はアジア人に特

異的に認められる。この S20G の変異についての成人 2 型糖尿病患者検索した結果、糖尿病群で有意に高値を示し、この変異が糖尿病の遺伝素因となる可能性を示唆した。ヨーロッパでは否定的見解が多い候補遺伝子群であるため、候補遺伝子として有無を調べるための調査数の推計が最も困難であった。また、浸透率の低い遺伝子であるためコントロールの概念をグループとして独自に開発した。

(金森雅夫)

3. 胃癌の家族集積性に関する研究

本年度は家族集積例の 488 家系の胃癌家系図とそこに示された胃癌の組織型をもとにして、家族性胃癌の遺伝形式つまりメンデル遺伝のどのタイプにしたがって遺伝しているか、本邦の家族集積例のうちどのくらいの割合がその形式にしたがって遺伝しているのかについて新知見を得た。

(金森雅夫)

4. 小児成長期における糖尿病発症形成過程の研究

静岡県 A 地区において、小学 4 年生 (n=418)、中学 1 年生 (n=457) 全員を対象に小児生活習慣病予防の一環としてヘモグロビン A1c 採血検査を実施した。BMI、総コレステロールとの関連をみた。

(金森雅夫)

5. QOL を高めるための第三次予防研究

高齢者が定期的にペット型ロボット AIBO との活動に参加することで Quality of Life、孤独感などに何らかの影響を及ぼしたと考えられるので報告した。

(金森雅夫)

6. 接触性皮膚炎におよぼす絶食の影響

Dinitrofluorobenzene (DNFB) 塗布によりアレルギー性接触性皮膚炎をマウス耳介に発症させ、24 時間および 48 時間絶食がおよぼす影響について検討した。DNFB 惹起後の皮膚炎は、耳介厚、病理組織像等の各所見が絶食により抑制されることを報告した。

(甲田勝康, 中村晴信, 范文英, 竹内宏一)

7. アトピー性皮膚炎におよぼす食事制限の影響

最近、NC/Nga マウスが皮膚炎の自然発症動物モデルとして確立された。このマウスは遺伝的要因とダニの存在という環境要因の相互作用から皮膚炎を発症し、その症状および病態はヒトのアトピー性皮膚炎に極類似する。我々は、食事制限を行った NC/Nga マウスでは、皮膚炎が発症せず、また発症してもその進行は緩徐であり、皮膚病変の面積率、炎症強度、積算搔痒行動時間、血清 IgE、病理組織像、炎症細胞、炎症サイトカイン等の所見は自由摂取群より軽度であることを報告した。

(甲田勝康, 中村晴信, 范文英, 竹内宏一)

8. 小児期からの生活習慣病予防に関する研究

高 TC 血症を示す小学生の学校での生活指導の在り方について検討を加える目的で、第二性徴が開始する小学 5 年生を対象に中学 2 年生まで追跡した。その結果、思春期の血清 TC 値は肥満度とは異なり、これから迎える第二性徴や発育に大きく影響を受けることが示唆され、特に小学 5 年時において高 TC 値を示す児童の中にはその後改善するものも多いことが示唆された。学齢期の健康指導を行うにあたっては単に TC 値のみを参考に安易な保健指導を一律に行うは危険であることが示唆されると報告した。

(甲田勝康, 中村晴信, 竹内宏一)

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. アレルギー性疾患の予防における食事制限の影響

従来、アレルギー疾患における食事制限とは、アレルギーの原因となる食物を除去するというものであった。今回我々は、炭水化物、蛋白質、脂質、ビタミン類、ミネラル類の全てを全体量として制限する試みであり、現在、皮膚科学会、栄養学会およびその他の学会において、このテーマについて研究しているグループはなく、内容は我々独自のものである。当該研究は、アレルギー性皮膚炎の予防に、生活習慣のひとつである食事を要因として持ち込み、今後の関連した研究領域を広く展開しうるための方向づけとして、また先駆的研究としての位置付けとしての意義がある。

(甲田勝康, 中村晴信, 范文英, 竹内宏一)

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 竹内宏一 (2001) 肝臓がんを解説, 静岡新聞, 5月14日
2. 竹内宏一 (2001) がんの疫学 (公開講座 がんに挑む), 静岡新聞, 6月3日
3. 竹内宏一 (2002) めざせ健康長寿日本一, 静岡新聞, 3月31日
4. 金森雅夫 (2001) 入院の子にセラピーロボ, 朝日新聞, 3月18日
5. 金森雅夫 (2001) ペット型ロボットでセラピー, NHK ニュース, 6月19日